

第9回マザーレイクフォーラムびわコミ会議 開催結果報告(概要版)

◇開催概要

日 時： 令和元年（2019年）8月31日（土）
 ＜第1部＞10:00～12:00 ＜第2部＞13:15～16:30

場 所： コラボしが 21（滋賀県大津市打出浜 2-1）

主 催： マザーレイクフォーラム運営委員会・滋賀県

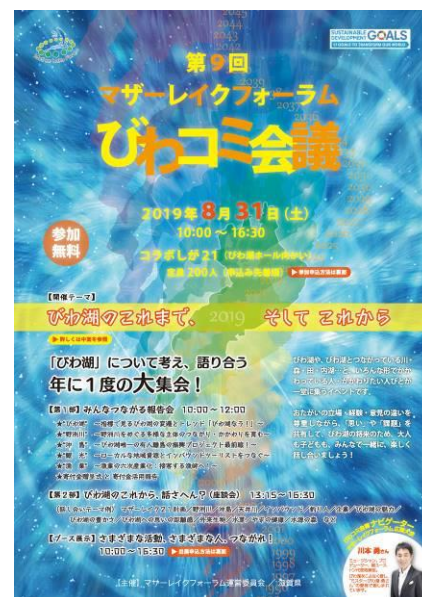
参加者： 192 名

参加団体： 92 団体

ブース出展団体数：18 団体

テーマ：『びわ湖のこれまで、そしてこれから』

内 容：



【第一部】みんなつながる報告会 10:00～12:00

ナビゲータ・川本勇（ユーストン）と佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）による進行のもと、「びわコミ会議」が開幕した。



1 開会挨拶

○松沢松治（マザーレイクフォーラム運営委員会委員長）

…我々漁師がびわ湖で 50 年間追いつけてきた魚の動きが、ここ数年、全然違う。何故かは分からないが、現実にはそういうことが起こっている。一方で、多くの方を巻き込みながら、ヨシの再生やビワマス遡上復活といった活動も展開してきている。今日は一日、未来のびわ湖に向けた議論をしていただきたい。



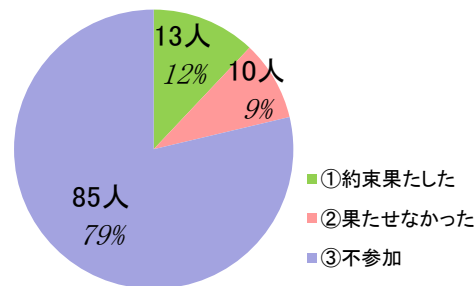
○西嶋栄治（滋賀県副知事）

…滋賀県では SDGs を県政の指針に取り入れ、「人の健康」「社会の健康」「自然の健康」の「3 つの健康」を進めつつある。滋賀の自然の象徴であるびわ湖では、「びわ湖の深呼吸（全層循環）」が今年の冬に観測史上初めて確認されないといった現象も発生している。こうした中、「マザーレイク 21 計画」がいよいよ来年で終期を迎える。今年のびわコミ会議のテーマである「びわ湖のこれまで、そしてこれから」について、みんなでしっかり議論をして、大いに問題を共有し、次の計画につなげていきたい。



2 昨年度のコミットメント

昨年度のびわコミ会議で各自が書いたコミットメント（約束）を、この1年間で果たすことができたかどうか会場アンケートを行ったところ、昨年度の参加者のうち半数以上が「約束を果たした」と回答。また、今年初めて参加した人が参加者全体の約8割と非常に多く、県外・海外からの参加者や、世代交代、新たな層からの積極的な参加がうかがえた。



3 「びわ湖なう」

「びわ湖なう」と題して、参加者に配布された「びわ湖なう 2019～指標でびわ湖と暮らしの過去・現在～」をもとに、滋賀県琵琶湖保全再生課の三和伸彦技監が、びわ湖の「これまで」と「今」の状態について報告した。

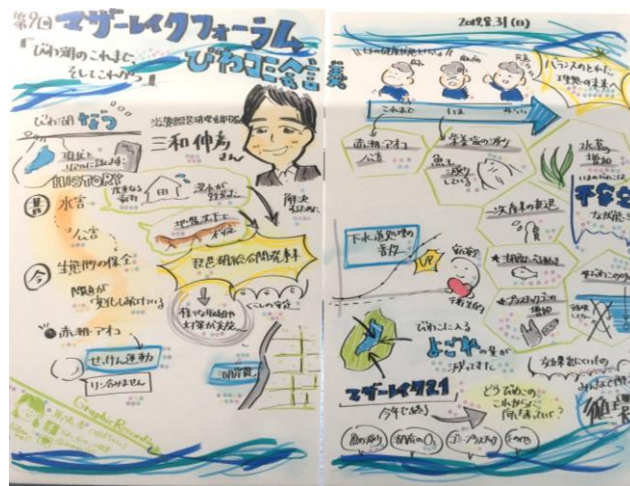
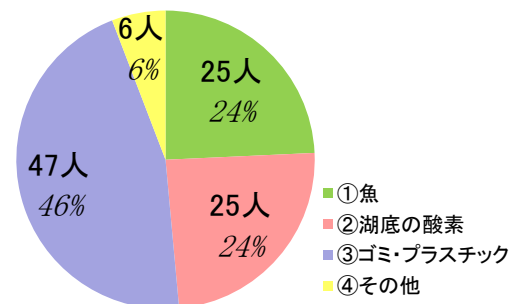
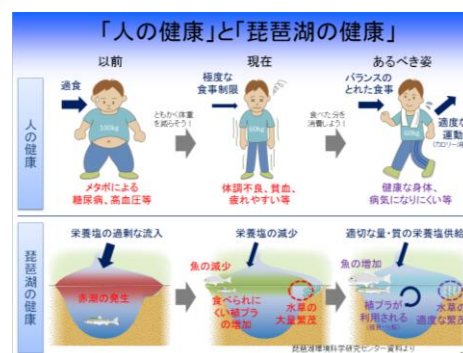
洪水、赤潮、水質、水草、漁獲量、一次産業など、それぞれの時代に特徴的な指標やトピックをもとに、びわ湖の環境課題の変遷と対策について解説。びわ湖の健康状態が、人の健康状態になぞらえて表現された。

また、この1年間の特徴的なトピックとして、びわ湖の深呼吸（湖底の酸素循環）のことや、プラスチックごみ問題についても解説。

最後に、今年策定された「滋賀県第5次環境総合計画」および来年終期となる「マザーレイク21計画（第2期）」について説明し、次期計画づくりへの参画を呼びかけた。

この「びわ湖なう」を聞いて、何に一番関心を抱いたかを会場アンケートで聞いたところ、半数近くの方がプラスチックを含む「ごみ問題」と回答。「魚」「湖底の酸素」がそれぞれ約1/4ずつ、という結果になった。

さらに、今回の「びわ湖なう」は、(株)いろあわせの馬場奏による「グラフィックレコーディング」も行われた。びわ湖のこれまでと今が1枚の絵で表現され、びわコミ会議が終了するまで、展示ブースエリアに掲示された。



4 「みんなつながる報告会」～活動団体4団体からの報告～

次に、以下の4つの団体からの活動報告を行った。

- ① 琵琶湖河川レンジャー（根木山恒平）
“野洲川の川守りをつなぐ”
- ② 沖島漁業協同組合（奥村 繁）
“漁師から見る琵琶湖”
- ③ Biwako Backroads（松井ライディ貴子）
“Share INAKA with the World!! ～地域と共に作るインバウンドのかたち～”
- ④ FLOATING LIFE（中川善一）
“魅力を知るきっかけ”



各団体からの報告の後、「データマン」と称した進行役の佐藤からそれぞれの報告内容への理解を深めるような関連データも提示しながら報告者との質疑を行い、さらに、下記の2人のコメンテーターが、各々の立場からコメントした。

○コメンテーター

- ・井手慎司（マザーレイク 21 計画学術フォーラム委員）
- ・辻 博子（一般社団法人滋賀県グリーン活動ネットワーク）

4 「寄付金受領式」

午前中の最後は、この1年間にマザーレイクフォーラム運営委員会へご寄付をいただいた「びわカンゴルフコンペ」「びわ湖チャリティー100km 歩行大会実行委員会」「Flower Produce ichica」の3団体の代表者をお招きして、マザーレイクフォーラム運営委員会委員長の松沢松治に対し目録を贈呈いただく寄付金受領式を行った。各寄付団体より、それぞれの取組もご紹介いただいた。

さらに、この寄付金を活用して実施している2つのプロジェクト「母の日父の日びわ湖の日プロジェクト」「市民の“創発”でびわ湖を守ろう！」の実施報告も行った。



【昼休み（ブース展示）】 12:00～13:15

18団体からブース出展があり、参加者は昼休みの時間を利用して各ブースを見て回りながら、思い思いに出展者との交流を深めたり、情報交換を行った。



【第二部】びわ湖のこれから話さへん？ 13:15～16:30

1 グループ討論

下記のテーマ別にグループに分かれて話し合いを行った。まず、話し合いの進め方や留意点等について、司会より説明を行った。続いて、各グループの担当者が紹介され、各担当者が簡潔に各グループのテーマのポイント等を説明した。



〔G01〕 柿佑爾・西陽来（座・沖島）

～沖島と琵琶湖の関係性～

〔G02〕 松井ライディ貴子（Biwako Backroads）

～世界中の人が訪れたいくなるびわ湖にするには？既存の「観光」にはないその先の魅力を伝える～

〔G03〕 中川善一（FLOATING LIFE）

～未来に残る琵琶湖の姿とは？魅力を尊重する発信とは？～

〔G04〕 石橋弘之・石田卓也（総合地球環境学研究所）

～語り合おう！野洲川の過去・現在・未来～

〔G05〕 石中英司・野田晃弘（琵琶湖・淀川流域圏連携交流会（BYnet））

～びわ湖に対するそれぞれの「想い」の距離感をどう縮めるか？～

〔G06〕 佐藤美菜・池田侑花（NPO 法人国際ボランティア学生協会（IVUSA））

～北湖のオオバナミズキンバイについて～

〔G07〕 桐畑孝佑（湖南流域環境保全協議会）

～天井川のこれまで、これから～

〔G08〕 松垣俊亮（大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa）

～琵琶湖の豊かさを守るには？～

〔G09〕 武田みゆき（淡海を守る釣り人の会）

～釣り人が出来る琵琶湖の保全と活用～

〔G10〕 清水宏孝（滋賀県琵琶湖保全再生課）

～マザーレイク 21 計画のふりかえり～

〔G 11〕 櫻本直樹（滋賀県森林政策課）

～「やまの健康」について～

〔G 12〕 野間直彦（滋賀県立大学）

～水源の森のこれまで、これから～

〔G 13〕 近藤康久（水宝山（水草は宝の山））

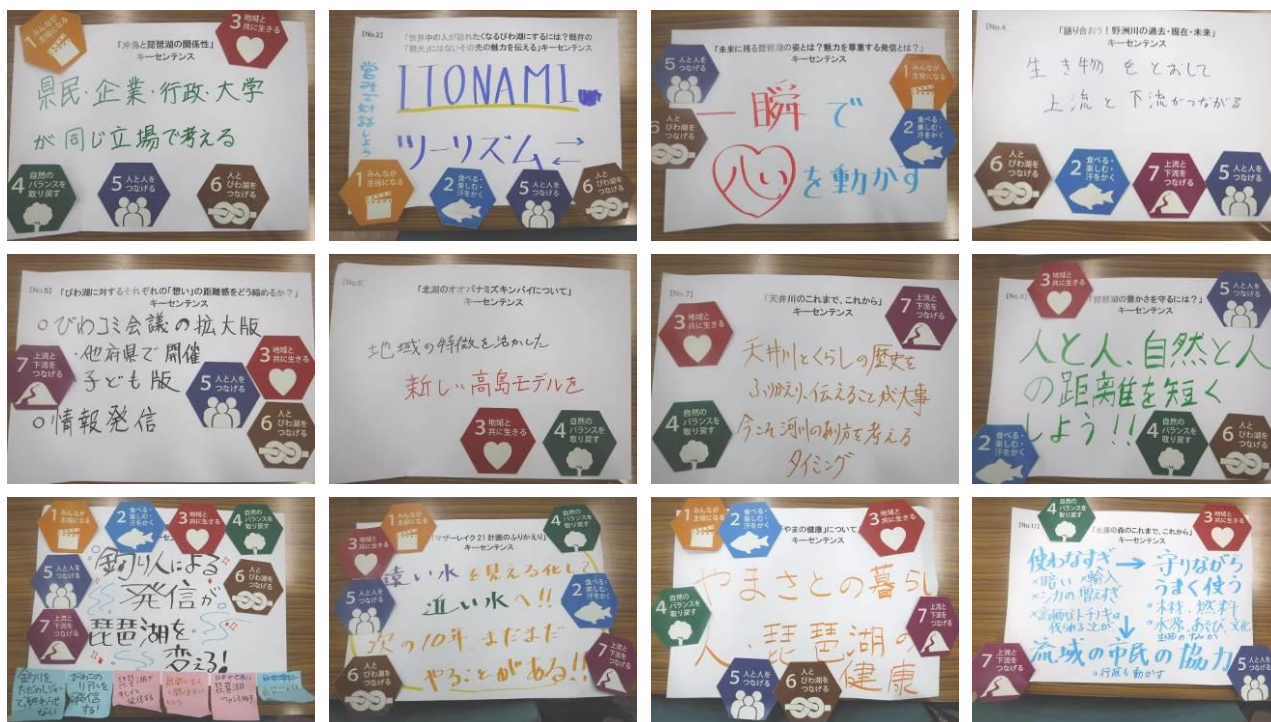
～水草×情報化～

各グループの参加希望人数を事前に把握するため、旗挙げによるグループ分けを行った。サブ会場も含め、1グループあたり4人～10人の合計13グループに別れて、それぞれ80分にわたって話し合いを行った。各グループ内のファシリテーターの進行により、参加者同士がそれぞれのテーマについて活発に議論を深めた後、最後に「キーセンテンス」をとりまとめた。話し合いには、午後から駆けつけた三日月知事も参加した。

2 第二部まとめ

休憩の後、ふたたびメイン会場に全員集まり、13グループの代表者が順番に登壇して、各グループでとりまとめた「キーセンテンス」を発表した。司会者が代表者から追加の意見を聞き出し、それぞれのテーブルで話し合われた内容を参加者全員で共有した。

○「キーセンテンス 2019」



最後に、三日月知事による総評と、13のキーセンテンスをビジュアルにまとめたグラフィックレコーディングで全体を総括した。



3 私のコミットメント



これから1年間、自分がびわ湖のために何をするかを宣言する「私のコミットメント（＝約束）」を参加者全員にフリップに記載してもらい、一斉に掲揚した。司会が数名を指名して、コミットメントを発表してもらった。

4 琵琶湖周航の歌

最後に、全員で「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、記念すべき10回目となる1年後の再会を約束して、司会者より閉会が告げられ、第9回びわコミ会議が終了した。（16:30）

